

私たちは日々、当たり前のように生きています。朝起きて学校へ行き、友達と笑い合い、家族と食卓を囲む。けれども、世界のどこかでは、こうした日常が存在しない場所があります。それは、戦争が続いている地域です。ニュースで見たウクライナやパレスチナの映像では、子どもたちが防空壕に逃げたり、がれきの中で泣いてたりしていました。その姿を見て、私は思いました。「どうして今も、おどかされるようなことが起きているのだろう」と。

戦争が起こると、真っ先に犠牲になるのは、武器を持たない一般の人々です。特に弱い立場にある子どもや高齢者が大きな被害を受けます。私はシリア内戦の難民の話を讀んだことがあります。ある女の子は、自分の家が爆撃されて家族と離ればなれになり、遠い国へひ難しなればならなくなったそうです。その子は「家族とまた笑って暮らしたい」と語っていました。その願いは、私たちにとってはとても普通のことですが、その子にとっては叶わない夢であることに、命の重みや日常のありがたさを感じました。戦争は、人の命を数字で教えてしまいます。「〇〇人死亡」という言葉が当たり前のように使われていますが、その一人ひとりには人生があり、家族や夢があるはずです。それなのに、戦争の中では、命が「作戦の犠牲」や「必要な損失」としてあつかわれてしまうことがあります。それこそが、戦争の最もおそろしいところだと私は思います。命の価値を軽くしてしまう戦争は、人間の心まで変えてしまうのです。また、日本が戦争をしていた時代には、「国のために命をささげるのは当然」という考えが広がっていたことを知りました。生きることより、死ぬことのほうが美しいとされた場面もありました。それは本当に正しいことだったのでしょうか。命を守ることが当たり前である今の私たちにとって、そうした考え方はとても不自然に思えます。しかし、戦争は人の心さえも動かし、「命を失うこと＝正義」という考え方を生み出してしまう怖さを持っています。命は、誰のものも取り替えがききません。けれども戦争では、その命をあまりにも簡単に奪い、使い捨てるように扱ってしまいます。その現実を知ったとき、私は「どうして人はそこまでして争うのだろう」「命を軽くしてまで守るべき物は何なのだろう」と疑問を持ちました。

私は、命を大切にすることというのは、他人の立場になって考えたり、争いをさけたりする努力だと思いません。戦争を止めることは難しくても、命の重みを知ること、そしてそれを周りの人と語り合うことは、私にもできるはずです。そうした行動の一つ一つが、命の価値を守ることにつながると思えます。命は、ただ生きているだけではなく、その人らしく生きられることが大切です。戦争は、その「その人らしく生きる時間」を奪ってしまいます。どんなに正当化されようと、命を軽く扱ってしまうこういのが正しいとは私は思いません。私たちは、戦争の記憶を持つ人の言葉のように耳をかたむけ、命の重みを想像する力を育てていかなければなりません。そして、命を軽くない社会、命を本当に尊重できる世界を目指して、小さなことから行動していくことが、平和への第一歩だと思います。命は、簡単に奪われてはいけない、かけがえのないものです。その当たり前を、私は決して忘れたくありません。